

授業科目(ナンバリング)	観光事業論(CA201)			担当教員	原 哲弘		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
観光事業の概念を明確にし、今後の観光事業に必要な理論的な知識を理解する。さらに観光の基本的な分野を網羅し、幅広い観光事業に関する知識を習得する。そして観光事業の理論と時代背景から観光事業の在り方を考えることができるようにする。また、具体的な事例の理解を深め、観光開発の理論と手法を身に付け、実社会において事業計画ができる人材となるのがねらいである。							②⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	社会人として必要な観光事業に関する基礎的知識を有し、実践することができる。				・定期試験 ・小テスト		30% 5%
情報収集、分析力	授業に沿って現代社会が実施している観光事業を調べ、自らの考えで分析することができる。				・定期試験 ・小テスト		30% 5%
コミュニケーション力							—
協働・課題解決力	さまざまな場面で起きている『観光公害』『観光まちづくり』など課題解決型の観光事業を理解し、解決することができる。				・定期試験 ・小テスト		10% 5%
多様性理解力	非日常と日常が交わることなど観光事業となる具体的な理解ができる。				・定期試験 ・小テスト		10% 5%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験の成績を80%として筆記試験を行う。また小テストを講義8回目、12回目(計20%)にそれまでの授業内容に関する課題を問い、各小テスト毎に総評を行う。評価基準は、長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。							
授 業 の 概 要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分です。観光事業の総論から始まり、リゾート、テーマパーク、博覧会、イベント・文化事業、宿泊業、運輸業、さらに着地型観光などを講義する。最後に、具体的な事業計画や実施スケジュールの立て方を解説する。講義の方法はプリント資料を毎回、配布し、板書・パワーポイントなどで表現し、新聞記事などを活用することで、できるだけ実社会に近い実践の講義を行う。また manaba による小テストを毎回実施し、ポートフォリオのアンケートを使い双方向型の授業を行うことで観光事業の理解を深めることができる。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書の指定はない。その代わりにプリントや類似する新聞記事を毎回配布する。特に参考書としては講義の内容を深め知識を得るために『観光事業論』北川宗忠(編) ミネルヴァ書房、『観光事業論講義』安村・細野・野口他(編) くんぷる を推奨する。指定図書:『新・観光立国論』デビッド・アトキンソン著/東洋経済新報社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
広く観光に関する知識を深め、さまざまな分野の観光事業の中から、自らの進むべき方向を分析する。次に、自らが好きな観光事業分野を調べ研究することで、実社会でさまざまな問題に直面した時に、自ら考え企画・立案、実施、運営といった一連の事業計画の流れができる人材となることを期待する。配布したプリントは大切に保管し、復習を授業終了ごとに十分に行い、自らのノートに書き込み試験に備えることが重要である。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	観光と観光事業	今までの観光と21世紀のニューツーリズム・国際観光時代の観光事業について解説する。	予習／事前にシラバスを熟読
2	観光事業の特質	国や地方自治体の観光事業の政策、観光基本法の概要と問題点、さらに観光庁について説明する。	予習／観光事業について、図書館やネットで調べる。
3	観光事業の展開	事業計画の手法を基本構想から段階的に順を追って概要を説明し、観光による経済・社会・文化的効果を説明する。	復習／第2回目の配布資料をノートにまとめる。
4	リゾート事業	海外と国内のリゾート事業を学び、21世における日本のリゾート事業のあり方を講義する。	復習／観光事業の展開をノートにまとめる。
5	テーマパーク事業	デンマークに始まるテーマパーク事業の歴史を学び、東京ディズニーランド、ハウステンボスなどの事例を挙げながら、現代におけるテーマパーク事業の問題点と今後の方向性を検証する。	復習／リゾート事業をノートにまとめる。
6	歴史的祝典事業	パリの万国博覧会や大阪万国博覧会などの歴史的な祝典による時代を学び事業の企画・立案、それに実施・運営の業務内容や同時代に及ぼした芸術・産業効果を講義する。	復習／テーマパーク事業をノートにまとめる。
7	イベント・文化事業	熊本アートポリス事業、越後妻有トリエンナーレ、横浜トリエンナーレなど4年、3年単位の周期から毎年行われるクリスマスイベントなどを説明する。	復習／歴史的祭典事業をノートにまとめる。
8	宿泊事業Ⅰ（旅館）	日本式宿泊型施設“旅館”の歴史を学び、現代における旅館業を取り巻く環境と問題点を解説し、昨今のツーリズムとしての“民泊”を紹介する。（小テスト①回目）	復習／講義1回目から7回目までの配布プリントを熟読し小テスト①の準備をする。
9	宿泊事業Ⅱ（ホテル）	西欧式宿泊型施設“ホテル”の歴史を学び、国内外のホテルを紹介する。またホテル事業の発展の歴史や宿泊を中心とした事業構造を解説し将来展望を講義する。	復習／宿泊事業Ⅰの講義をノートにまとめる。
10	運輸事業Ⅰ（鉄道・車両）	我が国の鉄道事業の発展とその後発展した道路事業、九州新幹線の開通や長崎新幹線の整備など、今後の鉄道事業と道路事業について解説する。	復習／宿泊事業Ⅱの講義をノートにまとめる。
11	運輸事業Ⅱ（空港・船舶）	航空機事業と船舶事業、共に軍需産業としてハード面の発展を経て、現代では安全運航に関するハード技術の進歩がみられる。また今後期待される“クルーズ事業”の展望を講義する。	復習／運輸事業Ⅰの講義をノートにまとめる。
12	着地型観光事業	市民参加型「観光まちづくり」着地型観光を講義する。また様々なツーリズムについて事例を説明する。（小テスト②回目）	復習／講義8回目から11回目までの復習を行い小テスト②の準備をする。
13	温浴事業	健康回復としての湯治に始まり、昨今の健康と癒しのためのスパ温浴を学び、現代の温浴事業の経済構造と今後の温浴事業について解説する。	復習／着地型観光事業の授業をノートにまとめる。
14	飲食・土産品事業	日本の伝統的な“会席料理”、禅宗の“精進料理”、茶の湯による“懐石料理”などの料理文化を学び、観光に欠かせない土産品の購入心理などについて解説する。	復習／温浴事業の授業をノートにまとめる。
15	事業計画及び実施スケジュール	観光事業に対する事業計画（基本計画、実施計画、運営計画）の具体的な立案方法、また実施スケジュール計画、それに運営管理・保全計画について講義する。	復習／授業1回から14回までの授業をまとめたノートを熟読する。
16	定期試験	筆記試験	全ての小テストを再確認する